

若宮小だより 特別号

令和6年 10月2日

若宮小学校

4月18日(木)に6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」が実施され、その調査結果が7月29日に公表されました。その結果を活かし今後の改善を図っていくために、学校としての主な課題とその改善策などを合わせて報告させていただきます。

《学力状況調査の結果》

国語

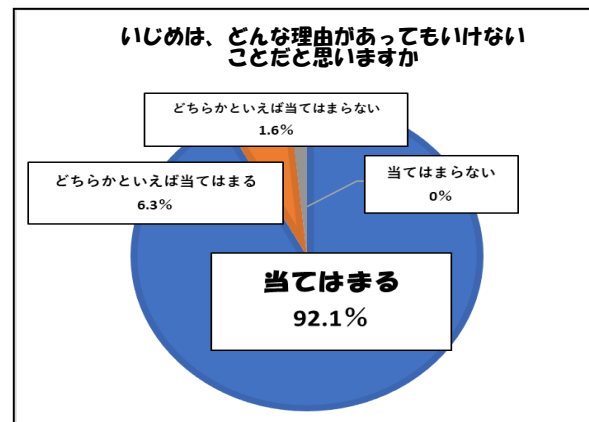
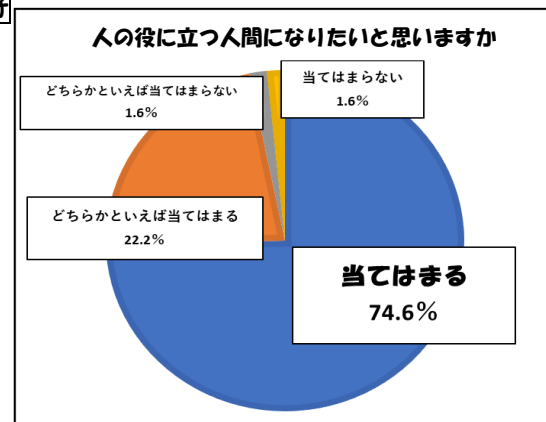
人物像を具体的に想像する問題や文中における主語と述語の関係を捉える項目に関しての正答率が高いです。しかし、文中やメモから意図や登場人物の心情を読み取る問題や、既習漢字から文章に合う漢字を正しく使う項目の正答率は低かったです。特に登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えることが本校の児童は難しく感じるようです。文の読解力や学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使う力を育成していく必要があると結果から分かりました。

算数

「身の回りの事象を目的に応じて表やグラフを用いて考察すること」の問題では、円グラフの特徴を理解して割合を読み取ったり、二次元の表から必要なデータを取り出して分類整理したりする知識・技能の正答率が高いです。しかし、問題の条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題となると正答率が低くなっていました。また、兵庫県、全国も同じ傾向があるのですが、「図形」の問題に苦戦したようです。直方体の見取り図・円周率を使って考える円柱の展開図・立方体の体積・角柱の面の数についての記述の問題が出題されました。図形についての基礎的な知識・技能は高くても、その知識の活用が課題があり、既習した知識を活用して深く思考したり、記述したりすることが苦手であることが分かりました。

《児童質問紙調査の結果》

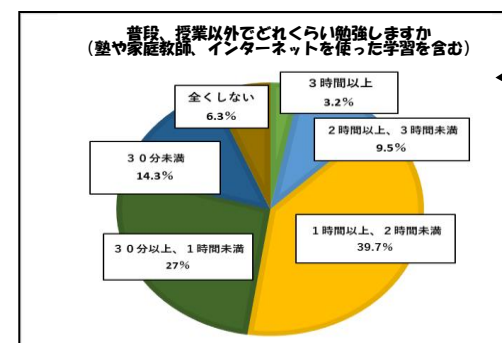
良好



他にも……

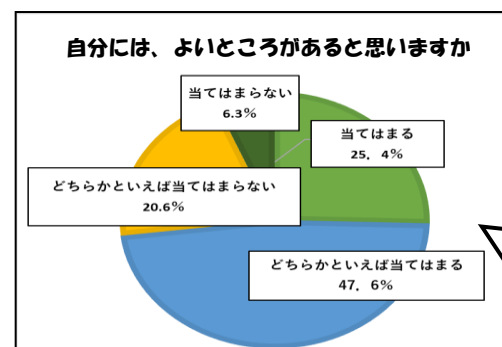
- ・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか……………95.2%
- ・友だち関係に満足していますか……………92.0%

課題



家庭での学習習慣を定着させる必要があります

平日に2時間以上学習をしている児童は全体の12.7%にとどまっています。これは、全国、県平均と比較すると10ポイント程度下回る結果となっています。また、全くしないと答えた児童が6.3%、30分未満と答えた児童が14.3%、合わせると20.6%になっています。



自尊感情・自己肯定感を高める必要があります

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、当てはまると答えた児童が25.4%で、これは全国、県平均と比較すると17ポイント程度下回っています。当てはまらない、どちらかという当てはまらなと答えた児童は26.9%になり、4人に1人が自尊感情や自己肯定感が低い状態にあることがわかります。

《今後の改善策》

国語科においては、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える問題に課題がみられます。物語文の学習等において、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して物語全体をとらえたり、着目した複数の叙述をもとに考えたことを交流したりする場面を多く設定していきます。算数科においては、図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)について、深い理解を伴う知識の習得やその活用が課題がみられました。課題の解決のために、日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得できる学習を進めていきます。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために、加古川市が進めている「協同的探究学習」の研究をさらに深め、問題解決の見方・考え方を育成する授業を進めていきます。

質問紙では、家庭での学習習慣や自尊感情・自己肯定感の高まりに課題がみられました。家庭での学習習慣を定着させるために、今後も継続して家庭学習の大切さを伝え、計画的に学習に取り組む習慣を身につけさせるようにしていきます。また、家庭学習の習慣を身につけさせるためには、ご家庭のご協力も大切です。そして、自尊感情や自己肯定感を高めるために、児童に寄り添い、日々の変化をしっかりと観察するとともに、「聴く」(喜び・悲しみ・怒りなどに共感する)「誉める」「教える」(我慢して待つ)「伝える」(ありがとう等の感謝の言葉)ことなどを大切に、成功体験を積み重ねさせることによって、自信や達成感を味わわせ、自分は大切な人間で生きている価値があるという気持ちを持たせていくことも大切になります。ご家庭でも積極的な声掛けや励ましなどをよろしくお願いいたします。

良好項目では、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目において、当てはまる・どちらかといえば当てはまると答えた児童が95%をこえています。毎年10月に行っている『わかみや人権週間』や日々の教育活動の成果もあり、学校のきまりや約束を守ったり、いじめに対する正しい認識をもったりする人権意識の基礎が培われている児童が多いことが分かります。今後も、児童に寄り添い、日々の変化を直接のかかわりの中や、日記、アンケート等で早期に児童の変化を発見することで、お互いに心の通った教育活動を進めていけるよう全職員が一丸となって取り組んでいきます。

国語 問題3の二

原さん  私は、オニグモじいさんがハエの女の子に、①を示しながら「わしみたいなクモが、生きるために食っているのはな」と言っておめたところを心に残ったんだ。

鳥さん  なぜ、そこが心に残ったの。

原さん  この言葉にオニグモじいさんの迷いが表れていると思ったからなんだ。②を示しながら「大きな目をひらいて、いっしょうけんめいに」とあるようなハエの女の子のすなおな姿を見て、自分がハエの女の子を食べる存在であることを、どのように話すか迷っているのではないかな。

鳥さん  そうか。それで結局、オニグモじいさんは、③を示しながら「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」と言ったんだね。

原さん  そうだね。物語のいろいろなところを結び付けて考えると、心に残った理由がはっきりしてきたよ。鳥さんは、どこが心に残ったの。

鳥さん  私は、④を示しながら「きれいな虹がかうかんで見えるだけ」という表現がいいなと思ったよ。もう一度物語を読んで、心に残ったところとその理由を考えてみよう。

国語 問題2の三

上級生が遠くからボールをいなげる

算数 問題3の(3)

A diagram illustrating a process. On the left, an open rectangular box contains a dark, shaded sphere (a ball). A large, hollow arrow points from this box to a closed rectangular box on the right. To the right of the closed box is a large question mark.

本設問では、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の一辺の長さが、ボールの直径の長さと同じになることを捉えられることと、立方体の体積は、「一辺×一辺×一辺」で求めることができることの両方を理解しておくことが必要です。日常生活を絡めながら、既習の知識を活用できる知識・技能を習得させることが大切だと思います。基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、身の回りの形から図形を捉え、普段の生活の中でも算数の授業で学習したことを活用していく学習を今後も進めていきます。